較べ合うor助け合う

　昨日お伝えした世界幸福度ランキング。
　日本の順位が落ちていることや、ブータンの順位が急落したことについて触れました。
　そうした中、５年連続幸福度ランキングで１位に輝いている国があります。
　それが、この前山田先生たちが行ってきたフィンランドです。
　昨日のオンライン授業の最後には、そのフィンランドでのお話を特別活動として山田先生にしていただくことにしました。
　そうすることで、一層「しあわせとは何か」「そのために大切なことは何なのか」という学びが加速すると思ったからです。
　ちなみに、その授業の中でも出ましたが、フィンランドは何も幸福度だけがとびぬけているわけではありません。
　教育においても、世界中から注目を集めている国でもあります。
　１０年ほど前に担任していたクラス（３年生）では、次のように朝の会でやり取りをしたことがあります。
　引用します。
　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココカラ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

世界で一番頭の良い国ってどこだと思う？

　今日の朝の会で聞いてみました。
　みんな、あてずっぽうで答えます。
　「アメリカ！」
　「韓国！」
　「オーストラリア！」
　もちろん日本も出ましたが、残念ながら違います。

他にも２０カ国ほど国名が出ましたが、見事に全員不正解でした。
正解は、フィンランドです。
学習到達度調査（ＰＩＳＡ）で世界一の成績を収めたことで、一躍有名になりました。
「フィンランドメソッド」として、その教育の在り方は大きな注目を集めています。
そして、もう１カ国。
世界の教育専門家が驚嘆する教育改革が行われ、中南米で断トツ１位の成績を収めた国があります。
そこは、経済的には大変厳しい状況にある国です。
にもかかわらず、子どもたちは心豊かに教育を受け、目覚ましい成長を遂げているのです。
一体どこか。
それは、キューバです。
北欧のフィンランドと、中南米のキューバ。
実は、どちらもユネスコが教育モデル国として推奨している国です。
本も様々出ており、勉強になる事が満載です。
もし興味がおありの方には、以下の２冊がオススメです。

○『図解フィンランドメソッド入門』　北川達夫著
○『世界がキューバの高学力に注目するわけ』　吉田太郎著

実は両国の勉強の仕方には、ある“共通点”があります。
さて、それは一体何か。
ちなみに両国とも、塾は少ないです。
キューバはほとんどありません。
家庭での勉強時間が取り立てて長いわけでもなく、むしろ日本より短いです。
つまり、学校以外で特別な方法を使っているわけではありません。
では、どんな方法なのか。
教室でも問いました。
「自由に勉強する」
「真似てお勉強する」
「遊びながら勉強する」
「本をよく読む」

鋭い意見が次々出て、思わず唸りました。
では、答えは何か。
次のように解説しました。

世界では、国によって色々な勉強の方法があります。 例えば、勉強の得意な子のクラスと苦手な子のクラスに分けて、勉強する方法。 これを、難しい言葉で習熟度別学習といいます。 自分と同じくらいのレベルの子が集まって、互いに競いながらお勉強する方法です。 この方法に、賛成ですか？それとも反対ですか？

子どもたちの多くは、「賛成」と答えました。
同じくらいの力の子同士の勉強の方が、はかどると思ったのでしょう。

フィンランドとキューバは、この方法を使っていません。 むしろ積極的に、勉強の得意な子も苦手な子も同じグループに混ぜて、一緒に学習します。 お互いに、教え合って助け合って勉強をしているのです。

これこそが、両国の教え方の最大の共通点です。
子どもたちが、授業の中で互いに教え合い学び合うシステムが確立されているのです。
みんな「へ～」と頷きながら聞いていました。
「競い合う」のではなく、「助け合う」のが、学ぶことの一つの本質なのかもしれません。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココマデ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
もちろん、他にも両国の教え方には様々な特徴があります。
それは、カルタを授業に取り入れることであったり、討論を行う事であったり、様々なジャンルの文章を書くことであったりと実に多様です。
実は、クラスが開始した当初から、これらの事は意識して学習に取り入れてきました。
みんなも心当たりがあるはずです。
もちろん教え合う・助け合う学習も何度も行ってきました。
「お隣同士説明し合ってごらんなさい。」
「お互いに質問し合って確かめます。」
「お助けマン出動！」（早く問題が終わった子が手伝いに行く事。）

「グループで相談して１つの意見に絞りましょう。」
などなど。
第４クォーターでは、さらにこうした助け合う学習活動を増やしていく予定です。
ちなみに、昨日のコスモスハーモニーでもお伝えした道徳の授業に関しては、放課後の職員室でも話題になりました。
特に「ブータン急落の原因」に関しては、子どもたちだけでなく先生方もその理由が気になったようです。
すでにご家庭でお話されたところもあるかもしれませんね。（もしそういう機会が実現していたら、その時の様子を教えて貰えると嬉しいです。）

１学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com)

尚、調べても答えにたどり着けなかったケースもあると思うので、参考となる情報をいくつか紹介しておきます。
以下は、女性セブンという雑誌のウェブ記事です。
「ブータン幸福度急落の理由」
記事から、中核となる情報を抜粋します。

「かつてブータンの幸福度が高かったのは、情報鎖国によって他国の情報が入ってこなかったからでしょう。情報が流入し、他国と比較できるようになったことで、隣の芝生が青く見えるようになり、順位が大きく下がったのです」（友野さん・以下同）

それまで幸せを感じていても、人と比べ始めたとたんに幸福度が下がる。精神科医の樺沢紫苑さんが言う。

「日本の幸福度が低いのは、他人と比べたがる気質も関係しているでしょう。精神医学においても、他人と比較する人は幸せになれないことがわかっています。欧米人は、他人と自分を比較したがらない。横並びを嫌い、収入、学歴、容姿、ファッションなど、さまざまな要素で他人と違うことを好みます」

競い合ったり較べ合ったりするところから不幸や教育の難しさが生まれ、
教え合ったり助け合ったりするところから幸福や教育の充実度が生まれていく実態を、教育者として見逃すことはできません。
１年生の各クラスにおいても、助け合ったり教え合ったりしている姿が日

ごとに増してきています。
　そうした場面を、これからも多くみられることを楽しみにしています。
（渡辺道治）